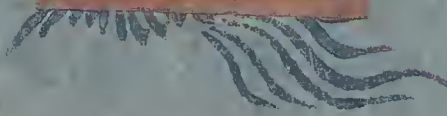
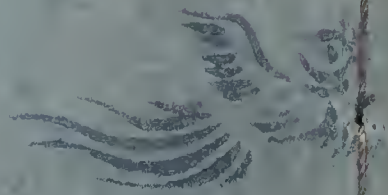
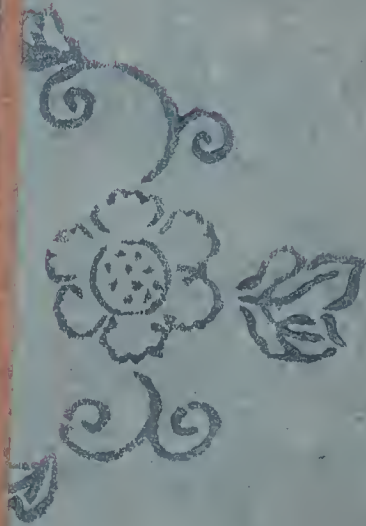
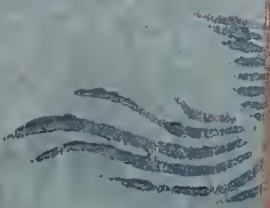
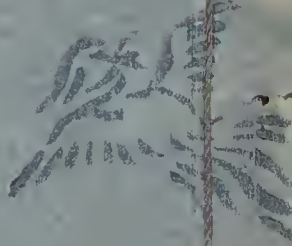
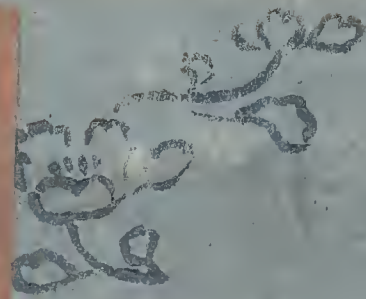
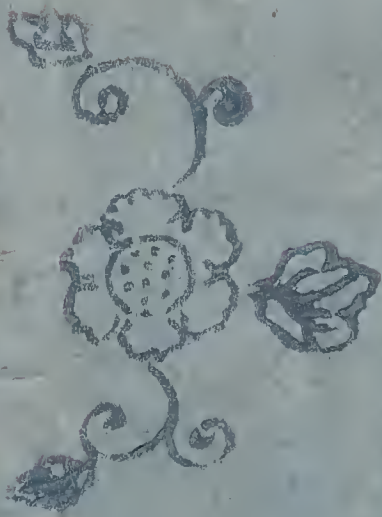


芳竹

玉兔拾遺

雨

下



754.7
.S3c
v. 3

6875

百鬼夜行拾遺下之卷目錄

○ 羅生門らせいもん

○ 夜啼の石よなきいし

○ 辱風ぢぶかぜ 颯さつ

○ 目目蓮めめれん

○ 眼め 競けい

○ 滝たき 灵たま 王おう

○ 白しろ 澤さわ

○ 芭蕉ばしやう 精せい

○ 硯えん の 塊かたまり

○ 毛羽けうう 毛け 硯えん

○ 狂きやう 脊せき

○ 後ご 髮かみ

○ 方かた 相あひ 氏うぢ

○ 隱かく 里さと

羅城門鬼

都良香

らまろんと

らまろんと

トク曰氣壽風

梳野柳髪とこの時

思柳一がとつきていづく

氷消波波旧苔髪と後波遠細がよま

狼とまぐれつらきちるくまもこの鬼形ま



夜啼石 よなきのいし

遠州 佐波の中山あり
むら 孕婦のあはれ
盗賊のいぢ子害せしむ
子ハ胎胞の内ニ恙々
幸子せ長くくもの
讎と報しとく



芭蕉精

ものつゝ

芭蕉の精人と作

物作

端お

柳



碓の魂

あつ人 赤間が園の石碓

ととく之く文房の一友

ととひと白雲家物語と

よきことととくくと

花形あつら

案段の碓の海の波さう

源平のさうみ今さうと

あつれいととやあつら

徐玄之が紫石潭也

そひあつれは



屏風びょうぶ 頰ほほ

翠帳すいじょう 紅圍こうい は松まつ をめづべ

顔かほ 変かは 倒たふ 扇あふぎ の文まじり あさうらと

枝えだ とつゝも 翠すい をさうらんと

ちりぬしきも 信あま とろけ

胸むね 三寸さんすん の恨うらみ よう

七尺しちせき の屏風びょうぶ も松まつ のまじり



毛羽毛現

毛羽毛現ハ惣オト
毛ヤハシヨクモウモ女の
どくふれをかくいふを
或ハ希有希見と云ふ
ありまれよ

ありま
れよ
を



目目連

煙霞 沁る

むら ぬけ 柵

家の 庭

目と多く かり

基の 庭

沁る



狂骨まがほね

狂骨まがほねハ井中せいちゆうの白骨はくこつちり

世よの誘とぎハ甚まことききりぞ

まやろころとやも

このうゝこのまきまきしき

より

いふあはん



目競

大政入る法皇ある秋の夜よ

されりべあはより出くもあは

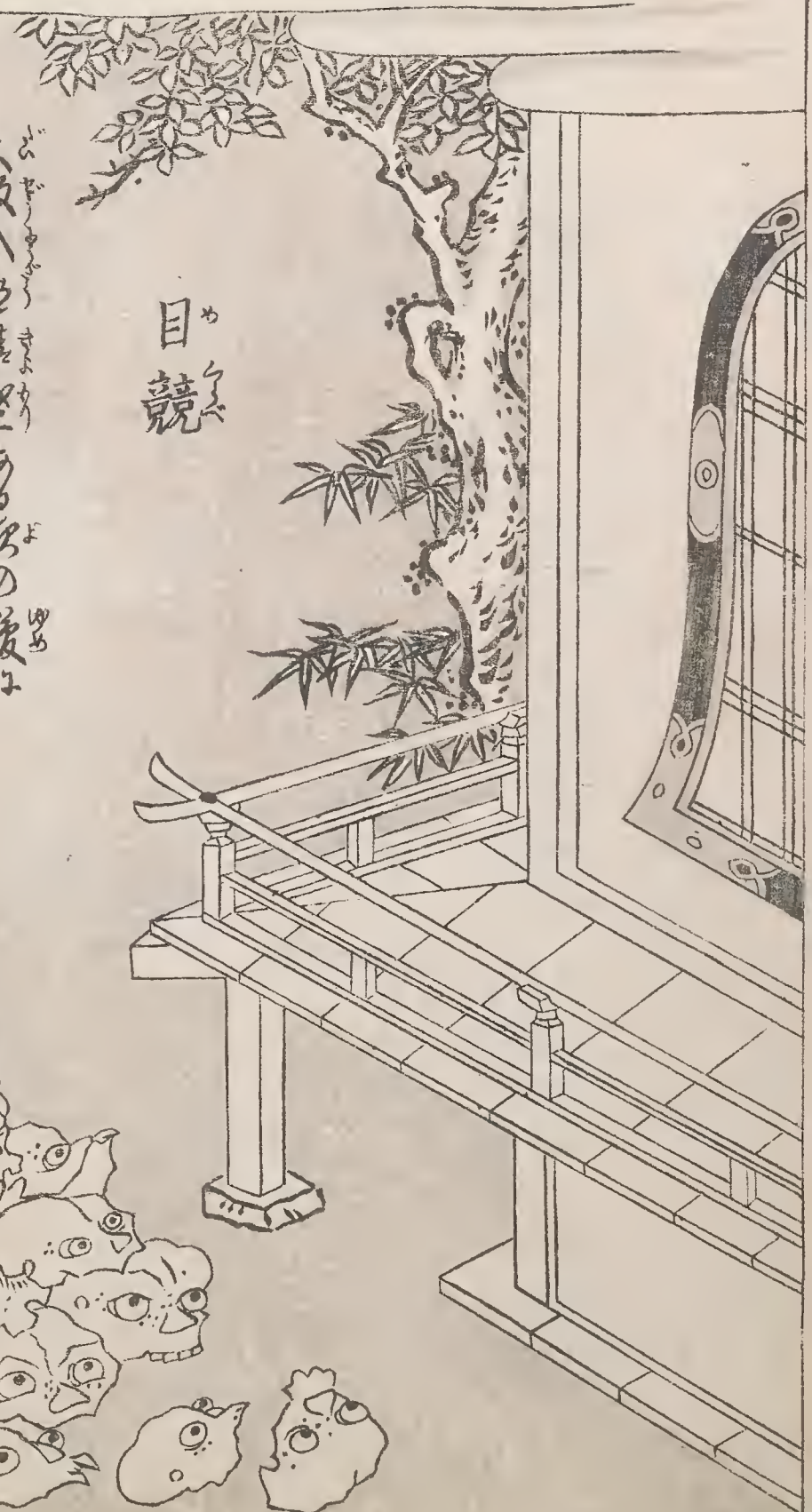
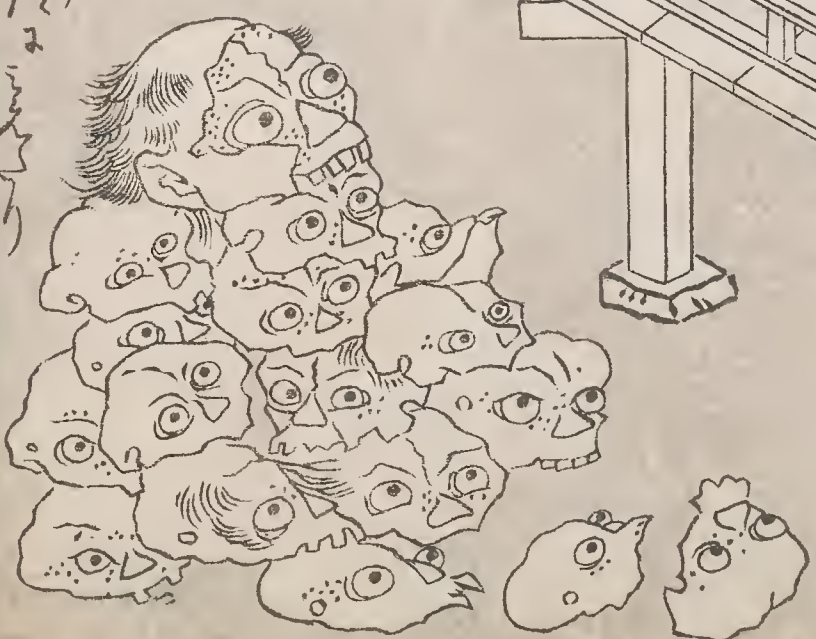
ニウありリクガのちま二十

百千万のちまいくちかといふ救とあま

入るもまげどこれぞあまみろま

人の目くらべとるやし

平家物語





後神

うしろ袂ハ揺る袂あつまらぬ
おまあるとそれを怒馬とて
後まありて人のうしろごと

ひく〜ん

イヤヤ
否哉

むう 漢の東方朔

あや 白出とて

怪哉と名づけ

いありあり

今この不義も

これ

あゝのう

あゝのう

あゝのう



方相氏

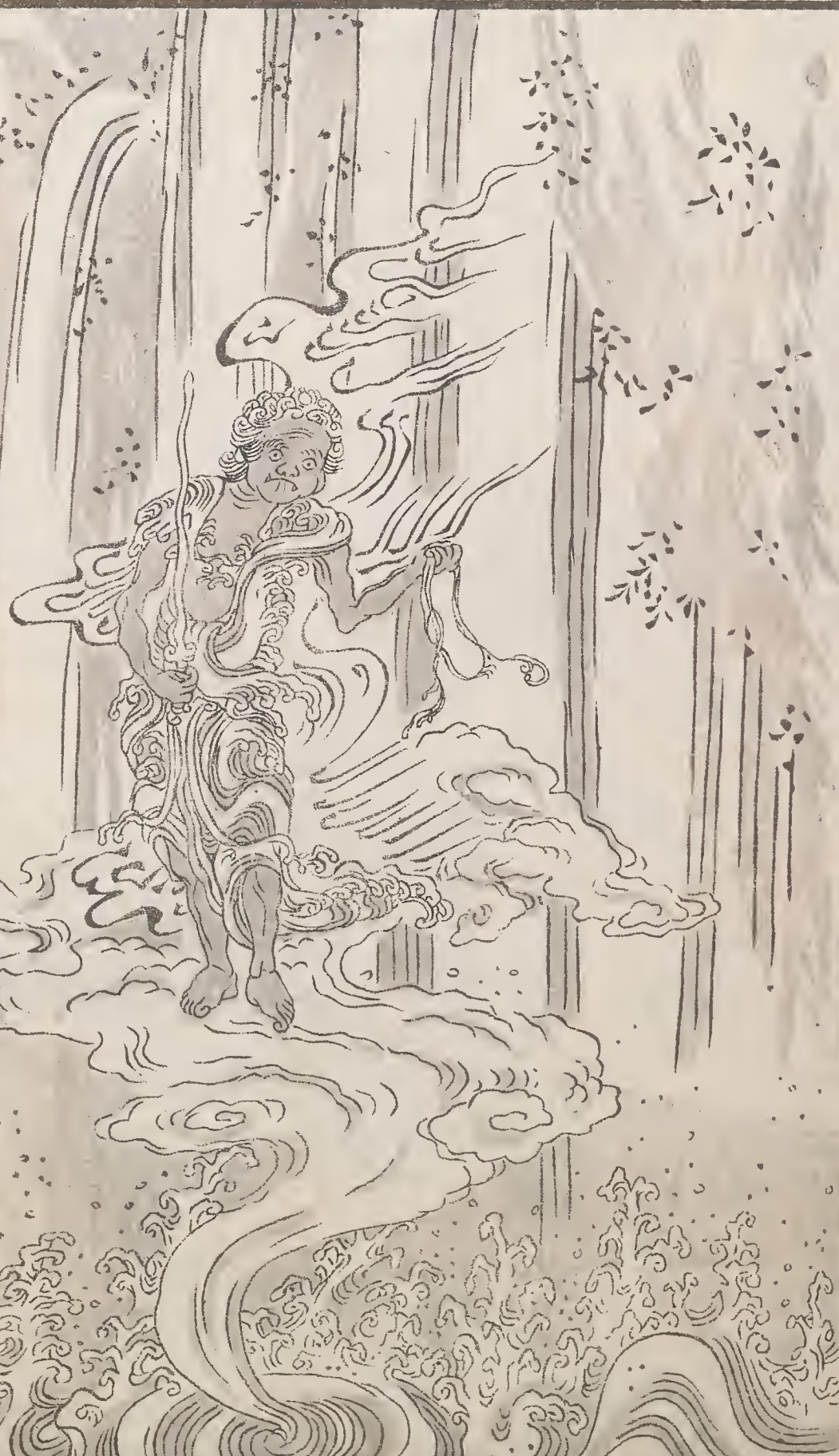
論語曰鄉人儻朝服而立
於阼階

註儻所以逐疫周禮
方相氏掌之



瀧
雲王

法王の流つがよりあつりつくと云
まはしりて一切の鬼魅法障を伏せしむ



白澤

黃帝東巡

白澤一見

避怪除害

靡所不徧

摸捫窩贊







鳥山石燕豐房畫

技合門人

子興
燕二

安永十^辛丑^春

彫工 井上新七

文化二乙丑年求板

江戸書林

本銀町三丁目

前川六左衛門
前川弥兵衛

1

